

3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

・定量評価 (5=100%以上 4=90~100% 3=80~90% 2=70~80% 1=70%未満)

・総合評価 (A=成果を上げている (4.5以上)、B=順調に進んでいる (3.5以上4.5未満)、C=概ね順調に進んでいる (2.5以上3.5未満)、D=順調に進んでいるとはいえない (1.5以上2.5未満)、E=事業の見直しが必要 (1.5未満))

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組 (実施状況)	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	利用サービスの改善	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすいレイアウト変更等 ・調査相談 (レファレンス) 機能の向上 ・SNSによる情報発信 	入館者数 【30万人】 <small>※コロナ禍の影響を考慮</small>	感染症対策下で、出向いての広報が制限される中、ツイッターの開始や、庁内LANでの職員へのお知らせ掲載など情報発信に努めた。 9月の緊急事態宣言による臨時休館期間は、予め予約した資料の貸出を、エントランスホールの特設会場で実施した。安全に配慮したうえで、可能なサービスを継続し、結果として、目標達成につながるよう努めた。	296,418人	達成率99% 評価 (4) 90~100%	制限のある中で安心して利用できる環境の確保に努めて、基本的なサービスを維持するなどの取組により、一定程度利用は回復したが、目標値にわずかに及ばなかった。 今後は、感染状況の改善に合わせて徐々にサービス範囲を拡大して、従来のサービスの再開や新たなサービスに取り組んでいきたい。	B	緊急事態宣言下での予約資料の貸出しの実施は評価される。入館者数の目標は達成されたと見なすことができる。 一方で、ウィズコロナの時期を見据えて、カフェ (喫茶や就労支援型施設のパンの販売など) の検討を含めた、資料の利用以外の施設利用についての工夫も必要である。
			貸出冊数 【42万冊】 <small>※コロナ禍の影響を考慮</small>	新しい資料収集方針のもと、より効果的・効率的な選書に取り組むとともに、閲覧室展示では時事的なテーマの展示や他部署との連携展示を積極的に行った。また、展示テーマについて調べるためのヒント集 (パスファインダー) を作成し、配布及びホームページに掲載することで、資料の利用促進を図った。併せて書架内展示や資料の見せ方の工夫など、魅力ある棚づくりに努めた。	457,894冊	達成率109% 評価 (5) 100%以上	利用促進の取組と、9月の感染拡大防止に伴う臨時休館中も、予約資料の貸出サービスを継続したことにより、目標を達成する見込みである。 今後も行政連携展示に重点を置いた取組を進める。	A	評価される。
			レファレンス協同データベース登録件数 【30件】	利用者から寄せられた調査相談内容から郷土に関するテーマなど、県民の調査研究活動を支援すると思われる事例を選定して登録を行った。また、調査事例だけでなく、調べ方マニュアルも登録することで、間接サービスの向上を図った。	32件	達成率106% 評価 (5) 100%以上	スケジュール通りに作業を進めた結果、登録件数は32件となり、目標を達成する見込みである。	A	高く評価される。
			SNSへの記事掲載回数 【24回】	ツイッターでの情報発信を9月から開始した。独自アカウントを開設し、新たな情報発信に取り組んだ。	65回	達成率271% 評価 (5) 100%以上	コロナウイルス感染症拡大による臨時休館情報等の発信も多かったため、年度当初の目標を大きく上回った。 次年度以降は、上方修正した指標の達成を目指して、ツイッターの特性にあわせた投稿内容を工夫するとともに、フォロワーの増加や県内図書館のフォローによる情報の周知・拡散にも取り組んでいきたい。	A	Twitterでは、展示についてきめ細かく情報発信していたことを評価する。若者向けの発信を積極的に行うことを期待する。

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	読書に困難のある 県民へのサービスの充実	・新コーナー設置と資料の充実 ・利用者のニーズに合ったサービスの提供 ・サビエ等サービスのPR	サビエ資料の貸出冊数 【220点】	・12月にギャラリーで「見て、聴いて、楽しむ！バリアフリー読書」展示を実施し、新コーナーの紹介や、当館の障害者サービスの案内を行った。 ・市町村図書館職員向けの障害者サービス研修では、サビエ活用の呼びかけを行った。 ・県内で障害者サービスを必要としている方々に効率的に情報提供するため、視覚障害者情報センターと連携協力し、相互PRや音訳協力者の研修等を実施した。	233点	達成率106% 評価（5） 100%以上	取組の結果、市町村図書館利用者が、県立図書館のサビエサービスを利用する事例も数件あるなど、貸出冊数が順調に伸び、目標を達成する見込みである。今後は視覚だけでなく、様々な障害により読書が困難な方への読書支援に努めるとともに、団体に向けたサビエサービスのPRを積極的に行い、利用に繋げていきたい。	A	サビエ図書館についてのPRは引き続き必要である。
	子どもや若い世代の読書推進	・コロナ対応を踏まえた子ども向けイベントの再開 ・高等学校への協力貸出（再掲）		・効果的に換気を行うため、子ども図書室の壁に扇風機を設置し、入替え制で入室する方法で10月から開室した。現在は平日の午前9時30分から午後4時までの限定的開室としている。読み聞かせイベントは、コロナウイルスの感染拡大を受け、再開を延期した。 ・県立高等学校等への協力貸出事業の改善に向けて、9月にアンケート調査を実施した。アンケート結果を踏まえ、物流システムの改善と、利用方法の簡便化を進めている。（再掲）			新しい様式を取り入れ、子ども図書室を開室することができた。コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、読み聞かせイベント再開の準備を進める。読み聞かせイベント休止中は、司書のおすすめ本をセットにして貸出する等の代替イベントを実施することで、子どもの読書活動普及に取り組んでいきたい。		就学前児童やその保護者・施設に対する情報発信が必要である。趣向をこらした図書（あるいは図書のセット）の紹介が期待される（例えば、世界の児童書を対象として、主人公に着目したり、類似の内容を取り合わせるなど）。
県立図書館職員の能力の育成	職員の研修機会の充実	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽	職員全体研修会の開催 【2回】	蔵書点検による休館期間中(6月)、仕事始め(1月)に各1回の研修を実施した。 <実績> ・6月 認知症サポーター養成講座 ・R4年1月 図書館の自由を学びなおす	2回	達成率100% 評価（5） 100%以上	全員受講の機会を確保することは難しかったが、当初の予定どおり2回実施できた。今後も全体研修の機会を確保して、図書館全体のレベルアップにつなげていきたい。	A	
			館内研修における職員の発表回数 【10回】	受講した研修について報告し、成果を共有する「伝達研修」を、1月に実施した。 ①全国図書館大会山梨大会（高齢者サービス） ②全国図書館大会山梨大会（障害者サービス） ③全国公共図書館協議会研究集会・児童青少年部門（感染症下の児童サービス） ④全国公共図書館協議会研究集会サービス・総合経営部門（デジタル・アーカイブの構築と活用法） ⑤新潟県公共図書館中堅職員研修会（常識のカバーを外そう 新たな図書館サービスの実践） ⑥図書館総合展（資料保存）	6回	達成率60% 評価（1） 70%未満	研修の受講に注力した一方、発表の機会を充分確保することができなかった。研修受講による成果は、日常業務で実践し共有することにより活かしているが、今後は伝達研修のあり方を検討し、全体のスキルアップにつながるよう工夫していきたい。	E	図書館が自らが設定した目標の達成は不可欠であり、また、計画的な実施により達成は可能であったと考えられるため、十分な反省と検討が必要である。本指標は「図書館による自己評価（左記）」に記されたような「研修受講による成果を日常業務で実践し共有することにより活かす」のではなく、研修成果を職員間で共有するための可視化した機会を意図的に設定し、組織としての力量を高めることを目的として設定されたものである。「伝達」のみならず、発表内容についての、職員間での話し合いも不可欠であることから、個人の研修成果を職員全体で確実に共有し、業務にフィードバックする「体制づくり」自体の検討から始めるべきである。

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県立図書館職員 の能力の育成	職員の研修機会の 充実	・研修に参加しやすい 環境の整備 ・研修成果の共有と自 己研鑽	職員の研修・会 議等参加平均回 数（全体研修を 除く） 【平均2回】	オンライン研修の増加により、例年より多くの職員が受講することができた。また、職員のスキルアップに向けて、研修の受講機会を一定程度確保することができた。 <実績> ①4月14日 Zoom研修4名 ②5月19日 パワーポイント研修1名 ③6月11日 ジャパンサーチ連携説明会2名(オンライン) ④6月14日 公文書管理活用研修会2名 ⑤7月8,9日 関東地区公共図書館協議会研究発表大会(オンライン)5名 ⑥7月15日 情報処理システム所管所属システム担当者研修1名 ⑦7月16日 国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス説明会(オンライン)2名 ⑧7月20日 子ども読書レベルアップ研修会(阿賀野市)2名(うちオンライン1名) ⑨8月27日 著作権セミナー1名 ⑩9月29日 新潟県公共図書館中堅職員研修会(～10月6日、オンライン)2名 ⑪10月26日 新潟県学校図書館研究大会1名(オンライン) ⑫11月1日～図書館総合展2名(オンライン) ⑬11月11日～全国図書館大会山梨大会3名(オンライン) ⑭11月25日～全国公共図書館協議会研究集会・児童青少年部門2名(オンライン) ⑮11月25日～全国公共図書館協議会研究集会・サービス部門総合・経営部門2名(オンライン) ⑯11月30日～12月3日 関東甲信越静地区図書館地区別研修8名(オンライン) ⑰12月3日 2021年度サピエ研修会1名(オンライン) ⑱1月20、21日 制作評価に関する統一研修1名(オンライン) ⑲1月21日 庁内マイスター講座2名 ⑳1月26日～情報リテラシー向上セミナー2名(オンライン) ㉑1月27日 特別研修「デジタル×地方」1名(オンライン) ㉒1月28日 多様な事例に学ぶ！行政・自治体のためのWEB・SNS活用セミナー1名(オンライン) ㉓2月9日 国立国会図書館フォーラム「デジタル化及びデジタルアーカイブ構築の現状と未来」1名(オンライン)	平均 2.6回	達成率129% 評価(5) 100%以上	オンライン研修の増加により、参加機会が格段に得やすくなったこともあり、当初目標を上回った。オンライン環境等の設備も整いつつあるため、次年度以降も可能な限り職員の研修参加機会を確保し、職員の育成と能力向上を図りたい。	A	県立図書館職員（司書）の能力の向上・蓄積は、県内図書館職員全体に影響することから非常に重要である。着実に実施したことを評価する。引き続き、オンライン環境の充実と、研修機会の確保に努める必要がある。